

PeopleSoft®

EnterpriseOne 8.9

ソフトウェア・アップデート・インストール・ガイド

PeopleBook

2003 年 9 月

PeopleSoft EnterpriseOne 8.9
ソフトウェア・アップデート・インストール・ガイド PeopleBook
SKU AC89JUI0309

Copyright 2003 PeopleSoft, Inc. All rights reserved.

本書に含まれるすべての内容は、PeopleSoft, Inc. (以下、「ピープルソフト」) が財産権を有する機密情報です。すべての内容は著作権法により保護されており、該当するピープルソフトとの機密保持契約の対象となります。本書のいかなる部分も、ピープルソフトの書面による事前の許可なく複製、コピー、転載することを禁じます。これには電子媒体、画像、複写物、その他あらゆる記録手段を含みます。

本書の内容は予告なく変更される場合があります。ピープルソフトは本書の内容の正確性について責任を負いません。本書で見つかった誤りは書面にてピープルソフトまでお知らせください。

本書に記載されているソフトウェアは著作権によって保護されており、このソフトウェアの使用許諾契約書に基づいてのみ使用が許諾されます。この使用許諾契約書には、開示情報を含むソフトウェアと本書の使用条件が記載されていますのでよくお読みください。

PeopleSoft、PeopleTools、PS/nVision、PeopleCode、PeopleBooks、PeopleTalk、Vantiveはピープルソフトの登録商標です。Pure Internet Architecture、Intelligent Context Manager、The Real-Time Enterpriseはピープルソフトの商標です。その他すべての会社名および製品名は、それぞれの所有者の商標である場合があります。ここに含まれている内容は予告なく変更されることがあります。

オープンソースの開示

この製品には、Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>) が開発したソフトウェアが含まれています。Copyright (c) 1999–2000 The Apache Software Foundation. All rights reserved. このソフトウェアは「現状のまま」提供されるものとし、特定の目的に対する商品性および適格性の黙示保証を含む、いかなる明示または黙示の保証も行いません。Apache Software Foundationおよびその供給業者は、損害の発生原因を問わず、責任の根拠が契約、厳格責任、不法行為（過失および故意を含む）のいずれであっても、また損害の可能性が事前に知らされていたとしても、このソフトウェアの使用によって生じたいかなる直接的損害、間接的損害、付随的損害、特別損害、懲罰的損害、結果的損害に関しても一切責任を負いません。これらの損害には、商品またはサービスの代用調達、使用機会の喪失、データまたは利益の損失、事業の中断が含まれますがこれらに限らないものとします。

ピープルソフトは、いかなるオープンソースまたはシェアウェアのソフトウェアおよび文書の使用または頒布に関しても一切責任を負わず、これらのソフトウェアや文書の使用によって生じたいかなる損害についても保証しません。

目次

サービス・パック SP1 のインストール指示.....	1
はじめる前に.....	1
Readme ファイル.....	1
複数のファンデーションのセットアップ.....	1
インタオペラビリティ・ドキュメント.....	1
JDE.INI に関する APS リアルタイム設定 (任意).....	2
パッケージのビルドと配布の問題.....	2
ライセンス管理機能.....	2
Vertex ヘッダー・ファイル (Vertex ユーザーのみ).....	2
サービス・パックのインストール.....	4
デプロイメント・サーバーのインストール.....	4
AS/400 サーバーのインストール.....	6
HP 9000 サーバーのインストール.....	10
RS/6000 サーバーのインストール.....	12
Sun サーバーのインストール.....	16
Windows NT または Windows 2000(Intel)サーバーのインストール.....	18
サービス・パックのインストール.....	18
クライアント・アップデート・パッケージの作成.....	20
JDE.INI に関する APS リアルタイム・イベント設定 (任意).....	21

サービス・パック SP1 のインストール指示

はじめる前に

本書では、ERP 9.0 を実行するすべてのサポート対象プラットフォームのワークステーションとサーバーに、サービス・パックをインストールする手順を説明します。また、特定の問題の解決やシステム・パフォーマンスの強化を行う他のタスクについても説明します。次の指示を参照し、実行する必要のあるタスクを判断してください。タスクには、サービス・パックのインストール前に実行する必要があるものと、インストール後に実行する必要があるものがあります。

これらのファイルは、各種プラットフォームの SAR 番号を指定してダウンロードできます。インターネット接続の速度に応じて、SAR をダウンロードするか、ソフトウェア配布部門に CD を注文するかを判断してください。

Readme ファイル

サービス・パックのインストールを開始する前に、関連 README ファイルで最新の情報と要件を確認してください。

複数のファンデーションのセットアップ

サービス・パックのフィックスを適用するテスト環境を含め、複数の OneWorld ファンデーションをセットアップすることをお勧めします。これにより、安定的な環境を確保してから、フィックスを本稼働用環境にプロモートできます。複数の OneWorld ファンデーションをセットアップする方法については、J.D. Edwards Knowledge Gardern にアクセスし、[Product(製品)] - [J.D. Edwards 5] - [Support(サポート)] - [Help You Install(インストールのヘルプ)]を選択します。[Service Pack(サービス・パック)]カラムで[Other Guides(その他のガイド)]を調べ、『マルチ・ファンデーション・インストール・ガイド(AS/400®、UNIX®、NT ベース・システム)』を選択します。

インタオペラビリティ・ドキュメント

インタオペラビリティ・ドキュメントおよび関連する例の保管場所は、デプロイメント・サーバー上で変更されています。このドキュメントは、z:\¥PeopleSoft¥B9¥COM から z:\¥PeopleSoft¥B9¥Interoperability に移動しました。

JDE.INI に関する APS リアルタイム設定 (任意)

このサービス・パックには、JDE.INI ファイルにイベント生成設定を追加して APS (アドバンスド・プランニング・ソリューション) のインテグレーションを有効化するための指示が含まれています。これらの設定は任意で、サービス・パックのインストール後に実施する必要があります。

パッケージのビルドと配布の問題

パッケージのビルドおよびアセンブリ・プロセスには、多数の重要なタスクが含まれており、パッケージを正常にインストールするには、これらのタスクを正常に完了する必要があります。パッケージのビルド、アセンブル、およびデプロイメントについては、『パッケージ管理』ガイドを参照してください。このガイドには、この種のほとんどのタスクとその手順が記載されています。パッケージをビルドする前に、これらのタスクを検討し、必要なステップをすべて確実に完了してください。

ライセンス管理機能

このセクションでは、Web クライアント、Web サーバー、またはエンタープライズ・サーバーに言及せず、ERP デプロイメント・サーバーと ERP クライアントのみにについて説明します。ファット・クライアントであるか、ターミナル・サーバー (TSE) や Citrix サーバーにインストールされているクライアントであるかは問いません。ERP 9.0 SP1 へのアップデートにより、ライセンス管理機能のパフォーマンスが向上してログ・メッセージが大幅に改善されています。この点を除き、エンドユーザーや管理者が気づく変更はごくわずかです。

ライセンス管理機能のパフォーマンスを向上するために、ライセンス管理スペック・ファイル `jdeclntuni.xdc` と `jdeclntuni.ddc` のフォーマットが変更されています。この 2 つのファイルはデプロイメント・サーバーの `client` ディレクトリにあります。これらのスペック・ファイルは新規フォーマットに変換されていますが、エンドユーザーと管理者が気づくのは次の点のみです。

- ERP 9.0 SP1 が常駐するデプロイメント・サーバーからインストールする最初の ERP 9.0 SP1 クライアント (ファット・クライアントまたは TSE サーバーや Citrix サーバー上のクライアント) では、`jdeclntuni` スペック・ファイルの変換中に遅延が発生しますが、最大でも数分間です。この遅延時間は、デプロイメント・サーバーのライセンス設定時に指定したライセンス数によって異なります。この遅延がエンドユーザー側で発生するのを防ぐために、管理者はファット・クライアントをインストールできます。このインストールは、いずれにせよすべてのアップデート中にテストとして実行する必要があります。

Vertex ヘッダー・ファイル (Vertex ユーザーのみ)

このセクションは、Vertex Quantum Payroll Tax および Vertex Quantum Sales and Use Tax アプリケーションを ERP 9.0 と併用するユーザーを対象としています。

このサービス・パックには、Vertex Quantum Sales and Use Tax 用の Vertex 2.0*ヘッダー・ファイルと、Vertex Quantum Payroll Tax 用の Vertex 2.3.2 ヘッダー・ファイルが組み込まれています。Vertex 2.0* Sales & Use と Vertex 2.3.2 Payroll は、必須バージョンとなりました。サービス・パックの適用後は、Vertex を正常に動作させるために 7 つのビジネス関数をリビルドする必要があります。これらの BSFN のマッピングによっては、サーバーまたはクライアントのアップデート・パッケージ、あるいはその両方の実行が必要になる場合があります。正常にアップデートするためにライブラリを再度コピーしてください。

サービス・パックの適用後に、次の 7 つのビジネス関数をリビルドする必要があります。

ビジネス関数	記述
B0700058	Vertex への接続の確立
B0000182	ベンダのビジネス関数に合わせた環境の初期化
B0000183	ベンダのビジネス関数に合わせた環境の解放
B7300004	Quantum 地理コードの取込み
B7300002	Quantum 地理コードの検証
B7300012	Quantum ソフトウェア情報の取込み
X00TAX	税額の計算と編集

ERP と Vertex Quantum アプリケーションの併用については、『インストール・ガイド』または『アップグレード・ガイド』の「Vertex Quantum Tax アプリケーションとの併用のための ERP 9.0 の構成」を参照してください。

*Vertex Quantum Sales and Use Tax のバージョンは、実行するサーバー・プラットフォームに応じて異なります。ERP は、次のバージョンをサポートしています。

AS/400	2.0.15
UNIX	2.0.16
Windows NT	2.0.17

サービス・パックのインストール

サービス・パックを完全にインストールするには、ERP 環境のサーバーとワークステーションをアップデートする必要があります。次のうちソフトウェア構成に関連するタスクをすべて実行してください。

- デプロイメント・サーバーのインストール
- AS/400 サーバーのインストール
- HP 9000 サーバーのインストール
- RS/6000 サーバーのインストール
- Sun サーバーのインストール
- Windows NT または Windows 2000 搭載の Intel サーバーのインストール
- クライアント・アップデート・パッケージの作成

デプロイメント・サーバーのインストール

次の手順に従って、デプロイメント・サーバー上のシステム・ディレクトリとサブディレクトリを置き換えてください。

1. デプロイメント・サーバー上で、¥system、¥systemcomp?および¥b9 クライアント・インストール・ディレクトリのコピーを作成します。
 - オリジナル・ディレクトリの名称は修正しないでください。オリジナル・ディレクトリは、サービス・パックのインストールに必要です。
2. ダウンロードするか CD を使用するかに応じて、次のサービス・パック・インストール手順を実行します。

ダウンロードする場合:

- このサービス・パックの SAR 番号を使用して、該当するソフトウェア・アップデートをダウンロードします。SAR 番号については、J.D. Edwards Knowledge Garden にアクセスし、[Home(ホーム)] - [Support(サポート)] - [Product(製品)] - [OneWorld Online(OneWorld オンライン)] - [Release Information(リリース情報)] - [Service Packs(サービス・パック)]を選択します。ファイルを解凍中であることを示すボックスが表示されます。
- デプロイメント・サーバーがインターネットに直接接続されている場合は、表示されるダイアログ・ボックスで[Run this program from its current location(このプログラムを上記の場所から実行する)]を選択し、ステップ 5 に進みます。
- デプロイメント・サーバーが直接接続されていない場合は、[Save this program to disk(対象をディスクに保存する)]を選択する必要があります。.exe ファイルを PeopleSoft ディレクトリ構造以外の選択したディレクトリに転送して、そこから実行します。

CD の場合:

- サービス・パック CD をデプロイメント・サーバーの CD ドライブに挿入します。Readme.html ファイルがポップアップ表示されます。この Readme.html ファイルには、setup.exe を起動するためのリンクが用意されています。

3. [OK]をクリックします。J.D. Edwards の(J.D. Edwards Installation Manager(J.D. Edwards インストール・マネージャ))画面が表示されます。

4. 〈Installation Manager〉画面で[Install: Service Pack Install(インストール: サービス・パックのインストール)]を選択します。〈JDEdwards Deployment Server Setup(JDEdwards デプロイメント・サーバーのセットアップ)〉が表示されます。

〈Deployment Server Setup(デプロイメント・サーバーのセットアップ)〉画面で[Next(次へ)]をクリックします。

5. [Next]をクリックします。パッケージ・サイズが計算されます。上記のように、パッケージ・サイズ計算情報がすでに表示されている場合があります。この計算には、数分かかります。

必要なディスク容量は、新規コードに必要な容量から現行のファンデーション・コードに使用済みのディスク容量を差し引くことで計算されます。そのため、計算された容量が小さい場合や、マイナスの場合があります。

デフォルトのディレクトリ・パスは、ERP バージョン B9 を含むディレクトリに自動的に設定されます。

6. 該当するホストのインストールを続行します。手順については、以降のページを参照してください。

AS/400 サーバーのインストール

ダウンロードしたサービス・パックを使用する場合は、AS/400 サーバーへのインストールを開始する前に、次の手順を実行してください。

ダウンロードする場合:

- AS/400 へのインストールを開始する前に、AS/400 ホスト・インストール用のサービス・パックをデプロイメント・サーバーにダウンロードします。デプロイメント・サーバーがインターネットに直接接続されている場合は、[Run this program from its current location (このプログラムを現在のロケーションから実行する)]を選択します。直接接続されていない場合は、[Save this program to disk (このプログラムをディスクに保存する)]を選択し、.exe ファイルをデプロイメント・サーバーにコピーして、そこから実行します。実行可能ファイルを Windows の一時ディレクトリにコピーすることをお勧めします。PeopleSoft ディレクトリ構造には保存しないでください。

ここでは、CD を使用するかダウンロードした場合の、AS/400 上のシステム・ライブラリを置換する方法について説明します。

次の複数のコマンドで *syslib* を参照しています。これらの参照を、AS/400 上の既存の ERP SYSTEM ライブラリの名前に置き換えてください。たとえば、*syslib* を B9SYS に置き換えます。

- AS/400 に ONEWORLD でサインオンし、このサービス・パックを適用するリリースを選択します。
- 次のコマンドを入力して、AS/400 上で OneWorld を終了します。

```
ENDNET  
CLRIPC
```

- AS/400 に QSECOFR でサインオンし、次のコマンドを入力して ERP SYSTEM ライブラリの名前を変更します。

```
RNM OBJ(QSYS/B9SYS) OBJTYPE(*LIB) NEWOBJ(B9SYSBK)
```

インストール環境に固有のオブジェクトが一部含まれているので、これらのライブラリは削除しないでください。

- カーネル・スペックをバックアップ・ファイルに移動します。

```
RNM OBJ('/B9SYS') NEWOBJ(B9BAK)
```

(異なるバックアップ・ファイル名を選択する場合は、NEWOBJ が存在しないことを確認してください。)

- 新規ディレクトリを作成して新規カーネル・スペックを格納します。

```
MKDIR ('/B9SYS')
```

- 次のコマンドを入力して、プロファイル ONEWORLD の権限を変更します。

```
GRTOBJAUT OBJ(ONEWORLD) OBJTYPE(*USRPRF) USER(*PUBLIC) AUT(*USE)
```

7. CD から AS/400 にサービス・パックを転送します。
- A. 次のコマンドを入力して、サービス・パック・ソフトウェア用の一時ライブラリを作成します。
- ```
CRTLIB JDETEMP
```
- このライブラリは、インストール完了後に削除できます。
- B. 転送準備として次のコマンドを入力し、ソフトウェア用の save ファイル(SAVF)を作成します。
- ```
CRTSAVF JDETEMP/SYSTEM
```
- C. 転送準備として次のコマンドを入力し、ソフトウェア用の save ファイル(SAVF)を作成します。
- ```
CRTSAVF JDETEMP/KRNLSPEC
```
8. SP CD を挿入しているか、実行可能ファイルをダウンロードしたコンピュータの DOS ウィンドウから、次のコマンドを入力してファイル転送プロトコル(FTP)セッションを開始し、エンタープライズの AS/400 に接続します。
- ```
C:>ftp yourAS400Name (yourAS400Name は AS/400 エンタープライズ・サーバー)
Connected to yourAS400Name
220-QTCP at yourAS400Name
(アイドル時間が 5 分を超えると、220 接続がクローズします。)
User <yourAS400Name:<none>>:qsecofr
331 Enter password.
Password:
230 qsecofr logged on.
```
9. 次のコマンドを入力して、ディレクトリを AS/400 上の JDETEMP ライブラリに変更します。
- ```
ftp> cd jdetemp
250 Current library changed to JDETEMP
```
10. 次のコマンドを入力して、ローカル・ディレクトリを AS/400 の SAVF を含む CD ディレクトリに変更します。
- ```
ftp> lcd z:\PeopleSoft\9\hosts\as400 (z:\はサービス・パックの CD を挿入するか実行可能ファイルをダウンロードしたドライブ)
```
- ローカル・ディレクトリは、この時点では z:\hosts\as400 です。
11. 次のコマンドを入力して、転送モードをバイナリに変更します。
- ```
ftp> bin
200 Representation type is binary IMAGE
```
12. 次のコマンドを入力して、SYSTEM SAVF を AS/400 にアップロードします。
- ```
ftp> put SYSTEM
200 PORT subcommand request successful
150 Sending file to member SYSTEM in file SYSTEM in library JDETEMP
250 File transfer completed successfully
nnnnn bytes sent in n.nn seconds <nnn.nn Kbytes/sec>
```

13. 次のコマンドを入力して、SYSTEM KRNLSPEC を AS/400 にアップロードします。

```
ftp> put KRNLSPEC
200 PORT subcommand request successful
150 Sending file to member KRNLSPEC in file KRNLSPEC in library JDETEMP
250 File transfer completed successfully
      nnnnn bytes sent in n.nn seconds <nnn.nn Kbytes/sec>
```

14. 次のコマンドを入力して FTP を終了します。

```
ftp> quit
221 QUIT subcommand received.
C:¥>
```

15. AS/400 上で、次のコマンドを入力して B9SYS ライブラリを復元します。

```
RSTLIB SAVLIB(B9SYS) DEV(*SAVF) SAVF(JDETEMP/SYSTEM) RSTLIB(B9SYS)
```

16. 次のコマンドを入力して、PRINTQUEUE ファイルを SYSTEM ライブラリのバックアップから新規に復元した SYSTEM ライブラリにコピーします。

```
CPYF FROMFILE(B9SYSBK/PRINTQUEUE) TOFILE(B9SYS/PRINTQUEUE)
FROMMBR(*ALL) TOMBR(*FROMMBR) MBROPT(*REPLACE) CRTFILE(*YES)
```

17. 新規ディレクトリを作成し、そこに JDE.INI ファイルを復元します。

```
MKDIR ('/B9SYS/INI')
```

18. 次のコマンドを入力して、JDE.INI ファイルを SYSTEM ライブラリのバックアップから新規に復元した SYSTEM ライブラリにコピーします。

```
CPY OBJ('/b9bak/INI/JDE.INI') TODIR('/b9sys/INI/')
```

19. IFS ファイル・システム内のオブジェクトを置換します。

```
RST DEV('/qsys.lib/jdetemp.lib/krnlspec.file') OBJ(( '/krnb9' *INCLUDE b9sys))
ALWOBJDIF(*ALL)
```

20. 現行の ERP リリース・レベルが B9 でない場合 (*syslib* が B9SYS でない場合など) は、次の手順を実行し、この ERP バージョンが命名規則と一致しているかどうかを確認する必要があります。ERP ユーティリティ・プログラム CRTOWSBS によりサブシステム名が設定され、現行のライブラリが ERP オブジェクトのライブラリと同期化されていることが確認されます。

- A. QSECOFR でサインオンしていることを確認します。
- B. ライブラリ・リストに ERP SYSTEM ライブラリを追加します。たとえば、“ADDLIB *syslib*”と入力します。
- C. ERP で WRKSBSD を実行し、このサービス・パックに付属するサブシステムの名前を判別します。たとえば、“WRKSBSD SBSD(*syslib*/*ALL)”と入力します。
- D. 次のコマンドを入力します。

```
CRTOWSBS subsystem( 'subsystemname' ) syslib B9SYS'
```

subsystemname は、ERP システム・ライブラリ(*syslib*)にある現行のサブシステム記述(*SBSD)の名称です。

CALL PGM コマンドには、2 つのパラメータが必要です。リリース B73.3 SP15 以降は、最後の 2 つのパラメータでサブシステム名と SYSTEM ライブラリを指定する必要があります。

21. AS/400 に ONEWORLD でサインオンします。ライブラリ・リストが正しく設定されているかどうかを確認するために、新規に復元した ERP システム・ライブラリ(B9sys など、x はリリース番号)が含まれているかどうかを調べます。

22. このインストール中に SYSLIB 名を変更した場合(今回のアップグレード前に SYSLIB が B7333SYS で、現在は B9SYS の場合など)は、JDE.INI ファイルを次のように変更して更新する必要があります。

[INSTALL]

DefaultSystem=B9SYS

23. ERP パス・コードごとに、関連 AS/400 ライブラリにあるビジネス関数のリンクを再設定します。このプロセスを簡素化するために、このサービス・パックにはプログラム LINKBSFN が用意されています。指定したパス・コード用のフルパッケージごとに、次のコマンドを実行する必要があります。

A. パス・コードのフル・パッケージに対して LINKBSFN を実行します。

“LINKBSFN”と入力し、[F4]キーを押してシステム・プロンプトを表示します。最初のパラメータにパッケージ・ライブラリ名、2 番目のパラメータにパス・コードを入力します。

B. 前の手順が正常終了するまで待ってから、次の手順に進みます。

この手順を、更新するパッケージとパス・コードごとに繰り返します。

24. サインオフし、ユーザーONEWORLD でサインオンします。PORTTEST や STRNET などの標準的な検証を実行して、ライブラリ・リストが正しく設定されているかどうかを調べ、ERP が正常に動作していることを確認します。

HP 9000 サーバーのインストール

ダウンロードしたサービス・パックを使用する場合は、HP 9000 サーバーへのインストールを開始する前に、次の手順を実行してください。

ダウンロードする場合:

- HP 9000 へのインストールを開始する前に、HP 9000 ホスト・インストール用のサービス・パックをデプロイメント・サーバーにダウンロードします。デプロイメント・サーバーがインターネットに直接接続されている場合は、[Run this program from its current location]を選択します。直接接続されていない場合は、[Save this program to disk]を選択し、.exe ファイルをデプロイメント・サーバーにコピーして、そこから実行します。実行可能ファイルを Windows の一時ディレクトリにコピーすることをお勧めします。JDE ディレクトリ構造には保存しないでください。
- ダウンロードすると、デプロイメント・サーバー上の¥hosts¥hp9000 ディレクトリに、ファイル system.Z が作成されます。すでに Windows サーバー上に読み取り専用の system.Z ファイルがあると、サービス・パックは正しくインストールされません。この問題を回避するには、サービス・パックをインストールする前に、既存の system.Z ファイルをバックアップ用の一時ディレクトリに移動します。

CD またはダウンロードを使用してインストールする HP 9000 上で、システム・ディレクトリとサブディレクトリを置換する手順は、次のとおりです。

1. エンタープライズ・サーバーに B9 管理ユーザー(jdeb9 など)としてログオンします。
2. CD からサービス・パックをインストールする場合は、次の手順を実行します。

CD の場合:

- system.Z ファイルを、サービス・パック(SP) CD の¥hosts¥hp 9000 ディレクトリから、デプロイメント・サーバーの z:¥PeopleSoft¥b9¥hosts¥hp 9000 ディレクトリにコピーします。z:は ERP がインストールされているドライブです。すでに Windows NT サーバー上に読み取り専用の system.Z ファイルがあると、サービス・パックは正しくインストールされません。この問題を回避するには、サービス・パックをインストールする前に、既存の system.Z ファイルをバックアップ用の一時ディレクトリに移動します。
 - エンタープライズ・サーバー上で、次の一時ディレクトリを作成するか、次のパスに存在していることを確認します。/u01/PeopleSoft/tmp (u01 は、J.D. Edwards インストールのマウント・ポイントです。このマウント・ポイントは、システムによっては異なる場合があります。)
3. エンタープライズ・サーバー上で次のコマンドを入力し、JDE B9 Queue および JDE B9 Network の ERP サービスを順に終了します。

```
cd $SYSTEM/bin32
./EndOneWorld.sh
./rmics.sh
```

4. B9 ディレクトリに移動し、次のコマンドを使用してシステム・ディレクトリ名を sytembak に変更します。

```
cd /u01/PeopleSoft/b9
```

(u01 は、ERP がインストールされているマウント・ポイントです。このマウント・ポイントは、システムによっては異なる場合があります。)

```
mv system systembak
```

旧バージョンが必要になった場合に備えて、元のシステム・ディレクトリは削除しないでください。

5. cd /u01/PeopleSoft/tmp など、一時インストール・ディレクトリに移動します。
6. ファイル転送プロトコル(FTP)を使用して、デプロイメント・サーバーの PeopleSoft¥b9¥hosts¥hp9000 にある system.Z ファイルを、エンタープライズ・サーバー上の一時インストール・ディレクトリに移動します。

A. "ftp" に続けてデプロイメント・サーバー名を入力します("ftp devsl" など)。

B. パスワードと共にユーザー JDE でログオンします。パスワードは、大文字、小文字が区別されます。

C. 次のコマンドを入力します。

```
cd z:/PeopleSoft/b9/hosts/hp9000
```

```
binary
```

```
get system.Z
```

```
bye
```

7. エンタープライズ・サーバー上の一時ディレクトリから、次のコマンドを入力します。

```
chmod 777 system.Z
```

(system.Z ファイルの許可を変更します。)

```
zcat system.Z | (cd /u01/PeopleSoft/b9;tar xvf -)
```

8. 次のコマンドを入力して B9 ディレクトリに移動し、許可を変更します。

```
cd /u01/PeopleSoft/b9/
```

```
chmod 555 system/lib/* system/libv32/*
```

9. 次のコマンドを入力して、JDE B79 Network および JDE B9 Queue の OneWorld サービスを順に開始します。

```
./RunOneWorld.sh
```

10. PORTTEST を正常終了します。

RS/6000 サーバーのインストール

ダウンロードしたサービス・パックを使用する場合は、RS/6000 サーバーへのインストールを開始する前に、次の手順を実行してください。

ダウンロードする場合:

- RS/6000 へのインストールを開始する前に、RS/6000 ホスト・インストール用のサービス・パックをデプロイメント・サーバーにダウンロードします。デプロイメント・サーバーがインターネットに直接接続されている場合は、[Run this program from its current location]を選択します。直接接続されていない場合は、[Save this program to disk]を選択し、.exe ファイルをデプロイメント・サーバーにコピーして、そこから実行します。実行可能ファイルを Windows の一時ディレクトリにコピーすることをお勧めします。JDE ディレクトリ構造には保存しないでください。
- ダウンロードすると、デプロイメント・サーバー上の`%hosts%rs6000` ディレクトリに、ファイル `system.Z` が作成されます。すでに Windows サーバー上に読み取り専用の `system.Z` ファイルがあると、サービス・パックは正しくインストールされません。この問題を回避するには、サービス・パックをインストールする前に、既存の `system.Z` ファイルをバックアップ用の一時ディレクトリに移動します。

CD またはダウンロードを使用してインストールする RS/6000 上で、システム・ディレクトリとサブディレクトリを置換する手順は、次のとおりです。

- エンタープライズ・サーバーに B9 管理ユーザー (jdeb9 など) としてログオンします。
- CD からサービス・パックをインストールする場合は、次の手順を実行します。

CD の場合:

- `system.Z` ファイルを、サービス・パック CD の`%hosts%rs6000` ディレクトリから、デプロイメント・サーバーの `z%PeopleSoft%b9%hosts%rs6000` ディレクトリにコピーします。z: は ERP がインストールされているドライブです。すでに Windows サーバー上に読み取り専用の `system.Z` ファイルがあると、サービス・パックは正しくインストールされません。この問題を回避するには、サービス・パックをインストールする前に、既存の `system.Z` ファイルをバックアップ用の一時ディレクトリに移動します。

- エンタープライズ・サーバー上で、次の一時ディレクトリを作成するか、次のパスに存在していることを確認します。

`/u01/PeopleSoft/tmp` (`u01` は、J.D. Edwards インストールのマウント・ポイントです。このマウント・ポイントは、システムによっては異なる場合があります。)

- エンタープライズ・サーバー上で次のコマンドを入力し、JDE B9 Queue および JDE B9 Network の OneWorld サービスを順に終了します。

```
cd $SYSTEM/bin32
./EndOneWorld.sh
./rmics.sh
```


5. B9 ディレクトリに移動し、次のコマンドを使用してシステム・ディレクトリ名を sytembak に変更します。

```
cd /u01/PeopleSoft/b9
```

(u01 は、ERP がインストールされているマウント・ポイントです。このマウント・ポイントは、システムによっては異なる場合があります。)

```
mv system systembak
```

旧バージョンが必要になった場合に備えて、元のシステム・ディレクトリは削除しないでください。

6. cd /u01/PeopleSoft/tmp など、一時インストール・ディレクトリに移動します。
7. ファイル転送プロトコル(FTP)を使用して、デプロイメント・サーバーの PeopleSoft/b9/hosts/rs6000 にある system.Z ファイルを、エンタープライズ・サーバー上の一時インストール・ディレクトリに移動します。
- A. "ftp" に続けてデプロイメント・サーバー名を入力します("ftp devsl" など)。
- B. パスワードと共にユーザー JDE でログオンします。パスワードは、大文字、小文字が区別されます。
- C. 次のコマンドを入力します。

```
cd z:/PeopleSoft/B9/hosts/rs6000
```

```
binary
```

```
get system.Z
```

```
bye
```

8. 一時ディレクトリ(/u01/PeopleSoft/tmp)に移動して次のコマンドを入力します。

```
chmod 777 system.Z
```

(system.Z ファイルの許可を変更します。)

```
zcat system.Z | (cd /u01/PeopleSoft/b9;tar xvf -)
```

9. 次のコマンドを入力して B9 ディレクトリに移動し、許可を変更します。

```
cd /u01/PeopleSoft/b9
```

```
chmod 755 system/lib/* system/libv32/*
```

10. Oracle 9.2 クライアント・ソフトウェアがインストールされている AIX 5.1 または AIX 5.2 マシンの場合は、次の手順を実行して既存の libora90.so ライブラリの名前を libora90.so.aix51 に変更し、新規ライブラリを新規ライブラリにコピーします。

A. J.D. Edwards OneWorld アカウントを使用して、エンタープライズ・サーバーにサインオンします。

B. 次のコマンドを入力します。

```
cd $SYSTEM/lib
```

```
mv libora90.so libora90.so.aix433
```

```
ln -s libora90.so.aix51 libora90.so
```

11. これで OneWorld エンタープライズ・サーバーが正常に起動します。

12. 次のコマンドを入力して B9 ディレクトリに移動し、許可を変更します。

```
cd /u01/PeopleSoft/b9/  
chmod 555 system/lib/* system/libv32/*
```

13. JDE.INI ファイルに次の設定が含まれていることを確認します。

```
[JDENET_KERNEL_DEF2]  
dispatchDLLName=libjdeketnet.so
```

```
[JDENET_KERNEL_DEF3]  
dispatchDLLName=libjderepl.so
```

```
[JDENET_KERNEL_DEF4]  
dispatchDLLName=libjdeketnet.so
```

```
[JDENET_KERNEL_DEF5]  
dispatchDLLName=libtransmon.so
```

```
[JDENET_KERNEL_DEF6]  
dispatchDLLName=libxmlcallobj.so
```

```
[JDENET_KERNEL_DEF7]  
dispatchDLLName=libjdeketnet.so
```

```
[JDENET_KERNEL_DEF10]  
dispatchDLLName=libjdeschr.so
```

```
[JDENET_KERNEL_DEF11]  
dispatchDLLName=libjdeketnet.so
```

```
[JDENET_KERNEL_DEF12]  
dispatchDLLName=libjdeketnet.so
```

```
[BSFN BUILD]
```

```
LinkFlags=-bI:/u01/PeopleSoft/b9/system/bin32/funclist.imp -bM:SRE -bexpall -brtl -lc -lm -  
bnoentry -L. -L/u01/PeopleSoft/b9/system/lib -ljdelib -lcallobj -lerror -lgentext -ljdb -ljde_erk  
-ljdecache -ljdeddapi -ljdeknet -ljderepl -ljdeschr -ljdesec -ljdespec -ljdetam -llanguage -lmisc  
-lpackage -lport -lqueueknl -lrdbapi -lruntime -lsrc -ltransmon -lube -lworkflow -ljdesaw -  
ljdenet -lowver -loadmap:loadmap
```

14. 次のコマンドを入力して、JDE B9 Network および JDE B9 Queue の OneWorld サービスを順に開始します。

```
./RunOneWorld.sh
```

15. PORTTEST を正常終了します。

Sun サーバーのインストール

ダウンロードしたサービス・パックを使用する場合は、Sun サーバーへのインストールを開始する前に、次の手順を実行してください。

ダウンロードする場合:

- Sun サーバーへのインストールを開始する前に、Sun ホスト・インストール用のサービス・パックをデプロイメント・サーバーにダウンロードします。デプロイメント・サーバーがインターネットに直接接続されている場合は、[Run this program from its current location]を選択します。直接接続されていない場合は、[Save this program to disk]を選択し、.exe ファイルをデプロイメント・サーバーにコピーして、そこから実行します。実行可能ファイルを Windows の一時ディレクトリにコピーすることをお勧めします。JDE ディレクトリ構造には保存しないでください。
- ダウンロードすると、デプロイメント・サーバー上の`%hosts%\sun` ディレクトリに、ファイル `system.Z` が作成されます。すでに Windows サーバー上に読み取り専用の `system.Z` ファイルがあると、サービス・パックは正しくインストールされません。この問題を回避するには、サービス・パックをインストールする前に、既存の `system.Z` ファイルをバックアップ用の一時ディレクトリに移動します。

CD またはダウンロードを使用してインストールする Sun サーバー上で、システム・ディレクトリとサブディレクトリを置換する手順は、次のとおりです。

1. CD からサービス・パックをインストールする場合は、次の手順を実行します。

CD の場合:

- `system.Z` ファイルを、サービス・パック CD の`%hosts%\sun` ディレクトリから、デプロイメント・サーバーの `z:\PeopleSoft\b9\%hosts%\sun` ディレクトリにコピーします。`z:` は ERP がインストールされているドライブです。すでに Windows サーバー上に読み取り専用の `system.Z` ファイルがあると、サービス・パックは正しくインストールされません。この問題を回避するには、サービス・パックをインストールする前に、既存の `system.Z` ファイルをバックアップ用の一時ディレクトリに移動します。

2. エンタープライズ・サーバーに B9 管理ユーザー (jdeb9 など) としてログオンします。

PeopleSoft/temp ディレクトリを作成したユーザーとしてログオンする必要があります。

3. エンタープライズ・サーバー上で、次の一時ディレクトリを作成するか、次のパスに存在していることを確認します。

`/u01/PeopleSoft/tmp` (`u01` は、J.D. Edwards インストールのマウント・ポイントです。このマウント・ポイントは、システムによっては異なる場合があります。)

4. エンタープライズ・サーバー上で次のコマンドを入力し、JDE B9 Queue および JDE B9 Network の OneWorld サービスを順に終了します。

```
cd $SYSTEM/bin32
```

```
./EndOneWorld.sh
```

```
./rmics.sh
```

5. B9 ディレクトリに移動し、次のコマンドを使用してシステム・ディレクトリ名を sytembak に変更します。

```
cd /u01/PeopleSoft/b9/
```

```
mv system systembak
```

旧バージョンが必要になった場合に備えて、元のシステム・ディレクトリは削除しないでください。

6. cd /u01/PeopleSoft/tmp など、一時インストール・ディレクトリに移動します。
7. ファイル転送プロトコル(FTP)を使用して、デプロイメント・サーバーの PeopleSoft¥b9¥hosts¥sun にある system.Z ファイルを一時インストール・ディレクトリに移動します。

A. "ftp" に続けてデプロイメント・サーバー名を入力します ("ftp devsl" など)。

B. パスワードと共にユーザー JDE でログオンします。パスワードは、大文字、小文字が区別されます。

C. 次のコマンドを入力します。

```
cd z:/PeopleSoft/B9/hosts/sun
```

```
binary
```

```
get system.Z
```

```
bye
```

8. エンタープライズ・サーバー上の一時ディレクトリから、次のコマンドを入力します。

```
chmod 777 system.Z (system.Z ファイルの許可を変更します。)
```

```
zcat system.Z | (cd /u01/PeopleSoft/b9;tar xvf -)
```

9. 次のコマンドを入力して B9 ディレクトリに移動し、許可を変更します。

```
cd /u01/PeopleSoft/b9/
```

```
chmod 555 system/lib/* system/libv32/*
```

10. 次のコマンドを入力して、JDE B9 Network および JDE B9 Queue の OneWorld サービスを順に開始します。

```
./RunOneWorld.sh
```

11. PORTTEST を正常終了します。

Windows NT または Windows 2000(Intel)サーバーのインストール

サービス・パックのインストール

ダウンロードしたサービス・パックを使用する場合は、Windows サーバーへのインストールを開始する前に、次の手順を実行してください。

ダウンロードする場合:

- Windows NT または Windows 2000 サーバーにインストールする前に、ホスト・インストールに該当するサービス・パックをデプロイメント・サーバーにダウンロードします。デプロイメント・サーバーがインターネットに直接接続されている場合は、[Run this program from its current location]を選択します。直接接続されていない場合は、[Save this program to disk]を選択し、.exe ファイルをデプロイメント・サーバーにコピーして、そこから実行します。実行可能ファイルを Windows の一時ディレクトリにコピーすることをお勧めします。JDE ディレクトリ構造には保存しないでください。
- ダウンロードすると、デプロイメント・サーバー上の¥host¥IntelNT ディレクトリで変更があったシステム・ファイルが置換され、このディレクトリに新規システム・ファイルが追加され、¥documentation ディレクトリにインストール指示がコピーされます。

CD またはダウンロードを使用してインストールする Windows NT および Windows 2000 サーバー上で、システム・ディレクトリとサブディレクトリを置換する手順は、次のとおりです。

- エンタープライズ・サーバー上で、JDE B9 Queue、JDE B9 Network の順にサービスを終了します。
 - [コントロール パネル]で[サービス]を選択します。
 - [JDE B9 Queue Services]を選択して[停止]をクリックします。
 - [JDE B9 Network Services]を選択して[停止]をクリックします。
- エンタープライズ・サーバーの Sytem ディレクトリのバックアップ・コピーを作成します。
 - オリジナル・バージョンが必要になった場合に備えて、元のシステム・ディレクトリは削除しないでください。

- CD からサービス・パックをインストールする場合は、次の手順を実行します。

CD の場合:

- サービス・パック CD の¥hosts ディレクトリから、該当するプラットフォームの¥System ディレクトリをエンタープライズ・サーバー上の z:¥PeopleSoft¥ddp¥b9¥ディレクトリにコピーします。z: は OneWorld が常駐するドライブ、x は ERP リリースの PTF/Cum 番号です。
- デプロイメント・サーバー上の¥hosts¥IntelNT ディレクトリから、システム・ファイルをエンタープライズ・サーバーにコピーします。
 - [コマンド プロンプト]ウィンドウで次のコマンドを入力して、各ファイルの属性を[Read-only]からすべての許可に変更します。

z:

cd z:¥PeopleSoft¥ddp¥b9¥system

attrib -r /S *.*

6. バックアップのシステム・ディレクトリから新規システム・ディレクトリに Resource フォルダをコピーします。
7. バックアップの system¥bin32 ディレクトリから新規の system¥bin32 ディレクトリに JDE.INI ファイルをコピーします。
8. エンタープライズ・サーバー上で、JDE B9 Network、JDE B9 Queue の順にサービスを開始します。
 - A. [コントロール パネル]で[サービス]を選択します。
 - B. [JDE B9 Network Services]を選択して[開始]をクリックします。
 - C. [JDE B9 Queue Services]を選択して[開始]をクリックします。
9. PORTTEST を正常終了します。

クライアント・アップデート・パッケージの作成

このプロセスでは、サービス・パックからクライアント・ワークステーションに変更を配布します。このサービス・パックがエンタープライズ・サーバー用ダウンロード版の場合は、エンタープライズ・サーバーをアップグレードしてから、ワークステーションをアップグレードする必要があります。最初にエンタープライズ・サーバーをアップグレードしないと、アップグレードするワークステーションからの要求を正常に受信して処理できなくなる可能性があります。

- パッケージのビルドおよびアセンブリ・プロセスには、多数の重要なタスクが含まれており、パッケージを正常にインストールするには、これらのタスクを正常に完了する必要があります。パッケージのビルド、アセンブル、およびデプロイについては、『パッケージ管理』ガイドを参照してください。このガイドには、この種のほとんどのタスクとその手順が記載されています。パッケージをビルドする前に、これらのタスクを検討し、必要なステップをすべて確実に完了してください。

次の手順に従ってクライアント・アップデート・パッケージを作成します。詳しくは、『パッケージ管理』ガイドの「パッケージの組立て」を参照してください。

1. 〈Foundation Component (ファンデーション・コンポーネント)〉画面の [Foundation Path (ファンデーション・パス)] で、[Default (デフォルト)] をクリックします。
2. [Next] をクリックし、残りの〈Package Assembly (パッケージ・アセンブリ)〉画面で操作を続行します。
 - パッケージには、ファンデーションのみを組み込みます。ヘルプ、オブジェクト、またはデータベースは組み込まないでください。
3. 〈Package Assembly〉の完了後に、[Activate (アクティブ化)] をクリックし、[Define Build (ビルドの定義)] をクリックします。
4. [Compress Foundation (ファンデーションの圧縮)] を選択します。
5. 〈Package Build Definition (パッケージ・ビルドの定義)〉の完了後に、[Activate] をクリックし、[Submit Build (ビルドの投入)] をクリックします。
6. このパッケージをすべての ERP ワークステーションに配布します。

これでサービス・パックのインストールは完了です。1 ページの「はじめる前に」を参照して、次のどの関連タスクをシステムに適用するかを判断してください。

JDE.INI に関する APS リアルタイム・イベント設定 (任意)

エンタープライズ・サーバー上の JDE.INI ファイルに APS イベント生成設定を追加すると、クライアントは OneWorld を介して APS (アドバンスド・プランニング・ソリューション) インテグレーションをアクティブ化できます。このインテグレーションを有効化する手順は、次のとおりです。

- JDE.INI ファイルにイベントを登録し、関連データ構造を組み込んで構成します。
- イベント・フィルタを、イベントを有効化するように設定します。

APS インテグレーションを有効化する前に、JDE.INI ファイルに次の設定が含まれているかどうかを確認してください。

```
[JDENET]

maxKernelRanges=20

[JDENET_KERNEL_DEF19]

krnlName=EVN KERNEL
dispatchDLLName=jdeie.dll
dispatchDLLFunction=_JDEK_DispatchITMessage@28
maxNumberOfProcesses=1
numberOfAutoStartProcesses=1

[JDENET_KERNEL_DEF20]

krnlName=IEO KERNEL
dispatchDLLName=jdeieo.dll
dispatchDLLFunction=_JDEK_DispatchIEOMessage@28
maxNumberOfProcesses=1
numberOfAutoStartProcesses=1

[JDEITDRV]

DrvCount=3
Drv1=RT:rtdrv.dll
Drv2=Z:zdrv.dll
Drv3=JDENET:jdetdrv.dll
```

APS インテグレーションの場合は、サーバー上で、JDE.INI ファイルの [INTEROPERABILITY] セクションの RegisteredEvents キーに、EventType を登録する必要があります。このキーには、値をカンマで区切って記述します。たとえば次のようになります。

```
[INTEROPERABILITY]

RegisteredEvents=RTSOOUT,RTPOOUT,RTWOOUT
```

特定のイベントで使用されるデータ構造体を、次のようにサーバー上の JDE.INI の [EventType] セクションにキーとして登録する必要があります。

[RTSOOUT]

DS1=D4202150B
DS2=D4202150C
DS3=D34A1050C

XPI APS インテグレーション全体を有効化するには、JDE.INI ファイルで次の集合体イベントを指定します。

[INTEROPERABILITY]

FilteredEvents=*ALL
RegisteredEvents=RTSOOUT,RTPOOUT,RTWOOUT,RTIBOUT

[RTSOOUT]

DS1=D4202150B
DS2=D4202150C
DS3=D34A1050C

[RTPOOUT]

DS1=D4302150B
DS2=D4302150C
DS3=D34A1050E

[RTWOOUT]

DS1=D3102290B
DS2=D34A1050D

[RTIBOUT]

DS1=D4101440B
DS2=D34A1050F

“FilteredEvents=*ALL”と入力すると、すべての登録済みイベントが生成されます。

“FilteredEvents=*NONE”と入力すると、APS イベント生成が無効化されます。

“FilteredEvents=SETTINGNAME”と入力して、選択したイベントをアクティブ化します。設定が複数の場合はカンマで区切ってください。個々のイベントについては、次の表を参照してください。

次の表は、APS 固有のイベントなど、現在使用可能なすべてのイベントの設定を示しています。クライアントは、どのイベントを生成するかを決定できます。

環境名	データ構造体名	イベント記述
[RTSOOUT]	DS1=D4202150B DS2=D4202150C DS3=D34A1050C	Sales Order Outbound(受注オーダー送信)の集合体イベント
[RTSOHDR]	DS1=D4202150B	Sales Order Header Outbound(受注オーダー見出し送信)の単一イベント
[RTSODTL]	DS1=D4202150C	Sales Order Detail Outbound(受注オーダー明細送信)の単一イベント
[RTSOAPS]	DS1=D34A1050C	Sales Order APS Outbound(受注オーダーAPS 送信)の単一イベント
[RTPOOUT]	DS1=D4302150B DS2=D4302150C DS3=D34A1050E	Purchase Order Outbound(購買オーダー送信)の集合体イベント
[RTPOHDR]	DS1=D4302150B	Purchase Order Header Outbound(購買オーダー見出し送信)の単一イベント
[RTPODTL]	DS1=D4302150C	Purchase Order Detail Outbound(購買オーダー明細送信)の単一イベント
[RTPOAPS]	DS1=D34A1050E	Purchase Order APS Outbound(購買オーダーAPS 送信)の単一イベント
[RTIBOUT]	DS1=D4101440B DS2=D34A1050F	Inventory Outbound(在庫送信)の集合体イベント
[RTIBDTL]	DS1=D4101440B	Inventory Outbound(在庫送信)の単一イベント
[RTIBAPS]	DS1=D34A1050F	Inventory APS Outbound(在庫 APS 送信)の単一イベント
[RTWOOUT]	DS1=D3102290B DS2=D34A1050D	Work Order Outbound(作業オーダー送信)の集合体イベント
[RTWOHDR]	DS1=D3102290B	Work Order Header Outbound(作業オーダー見出し送信)の単一イベント
[RTWOAPS]	DS1=D34A1050D	Work Order APS Outbound(作業オーダーAPS 送信)の単一イベント

